

神の召しに従い、神が導かれるままに行動する

私たちが聖書を読むとき、繰り返し示されるテーマのひとつが「神の召しに応答する人間の姿」です。アブラハムは、行き先も知らされずに神の声に従い旅立ちました（創世記 12 章）。モーセは、燃える柴の中から語る神の声に戸惑いながらも、イスラエルの民を救う神からの使命（召命）を受け入れました（出エジプト記 3 章）。
彼らは、自分の力や理解を超えた神の召し（召命）に「はい」と応答したのでした。

神の召しとは、特別な人だけに与えられるものではありません。
主はすべての人を愛し（＝相手を第一に考え、思いやる、尊重する）、それぞれに目的を持って呼びかけられます。その召しに応えるとは、自分の計画を神の御手にゆだね、神の導きに信頼して進むことです。

テサロニケの信徒への手紙 I	4:9 兄弟愛については、あなたがたに書く必要はありません。あなたがた自身、互いに愛し合うように、神から教えられているからです。
ヨハネの手紙 I	3:23 その掟とは、神の子イエス・キリストの名を信じ、この方がわたしたちに命じられたように、互いに愛し合うことです。
	4:7 愛する者たち、互いに愛し合いましょ。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。
	4:11 愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

ときに、神様の導きは私たちの思いと異なり、不安や恐れを伴います。
しかし、イエス・キリストご自身がゲツセマネの園で「**わたしの願いではなく、御心のままに**」と祈られたように（ルカ 22:42）、神様への従順こそが真の信仰の姿なのです。

マタイによる福音書	26:39 少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、 わたしの願いどおりではなく、御心のままに。 」
ルカによる福音書	22:42 「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、 わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。 」
エフェソの信徒への手紙	1:11 キリストにおいてわたしたちは、 御心のままにすべてのことを行われる方 の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。
ヤコブの手紙	1:18 御父は、 御心のままに 、真理の言葉によってわたしたちを生んでくださいました。それは、わたしたちを、いわば造られたものの初穂となさるためです。

神様は、私たちに完璧な信仰を求めておられるわけではありません。神様は、自分の弱さを抱えつつも、信頼して一歩踏み出す姿を喜ばれます。ペテロは水の上を歩こうとし、風を見て沈みかけましたが、その瞬間イエスは手を伸ばして彼を救われました（マタイ 14:29～31）。
主に従おうとする者には、神様は必ずその手で支えられるのです（創世記 28:15 見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない）。

人生の中で、何かに踏み出すべきか迷っているとき、静かに祈り、神様（聖書）の御言葉に耳を傾けてみてください。神様は今も語っておられます。**たとえ私たちには道が見えなくとも、神の召しに応える時、私たちの歩みは祝福へと導かれます。**

詩編 37:5～6

あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ、主は計らい 6 あなたの正しさを光のように／あなたのための裁きを／真昼の光のように輝かせてくださる。

主の召しに耳を傾け、忠実な信仰をもって従う者となり、与えられた道を進んで行くことができるよう、心から願いたいと思います。